

【生物】

近大の生物は数十～百字程度での論述と、免疫分野に代表される実験考察問題が特徴である。

大問は4題で、昨年は細胞周期・尿生成・タンパク質の消化・植物関連の小問(光合成など)であった。前2問は計算を含み、さらに第2問の尿生成では医学部生理学実習のレポート課題的な内容理解を、第3問の消化ではふだんの学習に際してどれだけ問題意識を持って取り組んでいるかを試す、最後の小問集合を除けば例年通りの近大的な出題であった。

その傾向は今年も踏襲されるものと考えられる。免疫分野の復活をはじめ、動物の体、とくに刺激の受容や筋収縮のしくみ、脳神経関連の出題には、知識の整理だけでなく典型的な出題パターンまで総チェックしておきたい。

またハーディ・ワインベルグの法則を含めた遺伝計算全般、受容体などの膜タンパク質の性質、植物の反応などについてもざっとおさらいしておくこと。

加えて、解答する際の姿勢も大切である。たとえ思考問題であっても、よくある問題の訊きかたを変えただけということも多い。そのような場合は作題者側に立った検討がヒントになったりもする。

百字を越すような論述であっても怯まず、1点2点を貪欲に取りに行く戦いをぜひとも心掛けてください。健闘を祈っています。

【化学】

今回の入試は新課程の初年度となるが、出題形式の大きな変更はないであろう。近畿医学部の場合、理論(無機・有機内容を含む)2問、有機1問の構成は継続されると思われる。理論で最も狙われそうなのは電池ではないだろうか。

燃料電池と鉛蓄電池が出題されやすいが、新型電池にも対応できるように電池の原理をよく理解しておきたい。また、濃度、溶解度、結晶格子は入試前には手薄になりがちな単元であるが、出題される可能性は高い。

有機では、三大栄養素よりも脂肪族、芳香族の方が狙われそうである。今年度入試を大胆に予想すると脱水縮合によるエステル化である。ここは実験の手順も含めてよくチェックしておこう。